福井市立郷土自然科学博物館研究報告
第35号：103－105　（1988）

その後の敦賀の水島

敦賀市職員郷土誌同好会

我々は本誌に「敦賀の水島，その地形と博物」(1985)を報告したが，県が昭和58年から60年にわたり海岸保全工事として水島三島を堤で繋ぐ工事を行った為，地形は勿論のこと生物も変化しただろうと思われるので再び調査をした。

植物について

全体として鼻ノ島を除き変っていない。唯，本島のハマボウフが従前より浜が広くなった為だろうか数が増加していた。

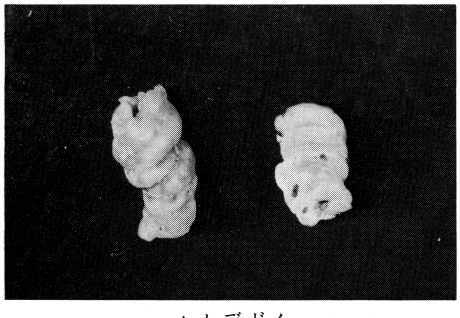
又，地元の日本原子力発電所が昭和63年3月に鼻ノ島の中央部の松の枯木をとり除いて客土を入れ，再び植栽をした。その植栽された種類は。

円形の中央部に，クロマツ55本。トベラ55本。
次の円環部分に，トベラ，シャリンバイ 126本。ハマビワ54本。
次の外円環部分に，マサキ45本。トベラ60本。アキグミ45本。がそれぞれ植付された。

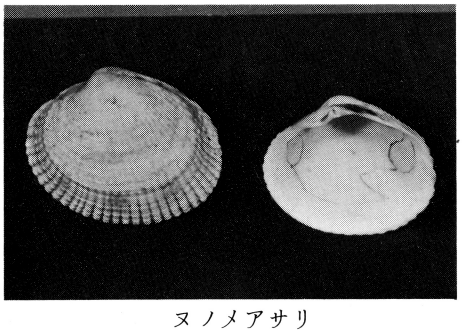
貝類について

今回の採集で下記の種を見つけた。

フタオビイトカケギリ
ハナチグサガイ
ヒメヨウラクガイ
ムカデガイ
ヌノメアサリ
ミミエガイ
ハナエガイ



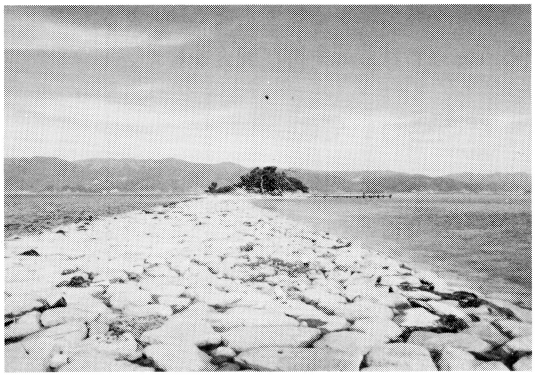
ムカデガイ



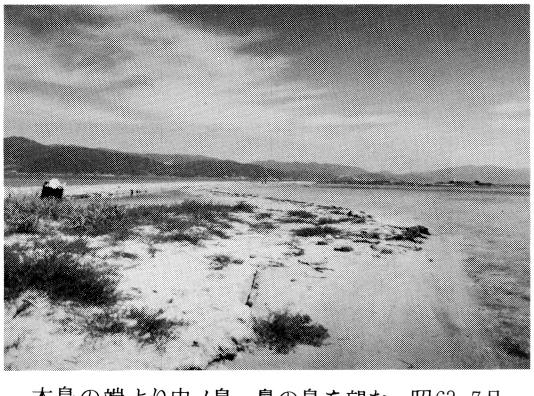
ヌノメアサリ

地形について

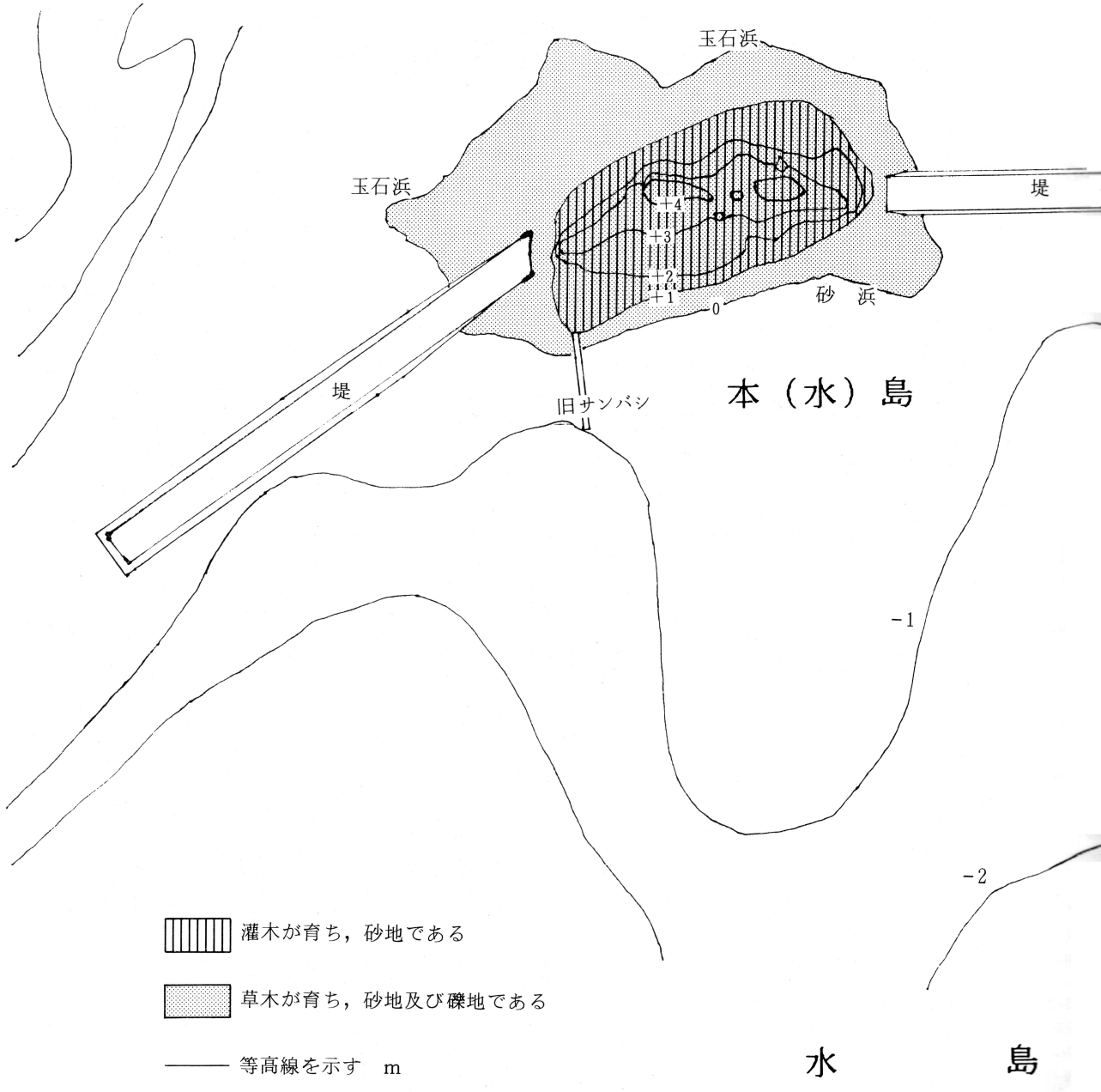
別図の通り，三つの島の間が堤で繋がれた為に，手前側（西側）には砂が堆積し始めている。この堤は硬石を割ったものを並べ積んだもので，目地を詰めていない為に海水が流通しているので，水位が上らなくても生物の棲家となっている。



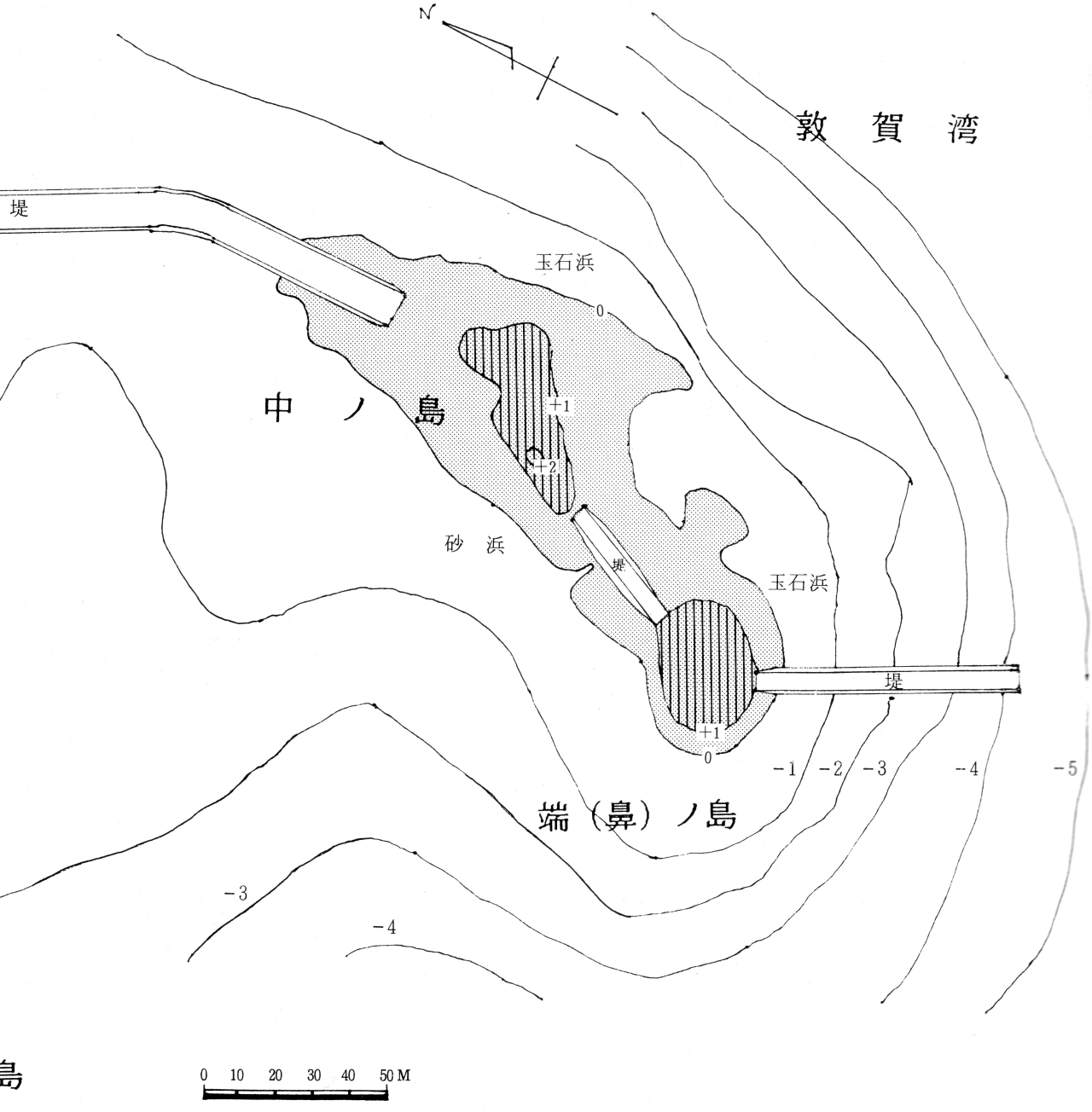
明神崎方面から本島の突堤を望む　昭63. 7月



本島の端より中ノ島，鼻の島を望む　昭63. 7月


玉石浜
玉石浜
堤
+4
+3
+2
+1
0
砂　浜
堤
旧サンバシ
本（水）島
-1
-2
灌木が育ち，砂地である
草木が育ち，砂地及び礫地である
等高線を示す　m

水　　島



島